

## 公立陶生病院に通院されている患者さんへ

### 「結核治療に伴う薬疹の実態調査」についての情報開示

結核の治療は、リファンピシン、イソニアジドという2週類を軸に、最初4剤、続いて2～3剤を合計6ヶ月使用するというものです。複数の薬剤を使用して長期間の治療を継続することもあり、副作用に注意が必要です。代表的なものとして、食思不振・倦怠感、皮疹、肝機能異常などがあります。

結核治療に伴う皮疹の出現は結核治療の中断や、治療中の薬剤耐性化の要因の一つとなっており、その対応方針を設定することが重要と考えられます。結核治療における皮疹の実態は明らかではないことから今回の研究を計画しました。

本研究では、結核治療中に皮疹を発症された方の診療録より、性、年齢や、皮疹の状況に関する情報を収集し集計するものです。これにより、結核治療中の副作用の実態を検討し、今後の日本の結核治療のあり方を検討するための資料となります。

新たに、対象となった方から血液、喀痰などを採取して検査することはありません。また、収集する情報は、性、年齢、使用薬剤、皮疹の性状に関する情報のみであり、集計・解析に際して匿名化して情報を取り扱い、対象者の個人情報厳重に保護しています。

研究期間は倫理委員会承認後より2019年12月31日までを予定しています。

研究機関：公立陶生病院

研究代表者：吉山 崇（結核予防会結核研究所企画主幹）

結核研究所からのお知らせ「結核治療に伴う薬疹の実態調査について」は以下のURLからご覧になれます。

[http://jata.or.jp/tp\\_detail.php?id=113](http://jata.or.jp/tp_detail.php?id=113)

上記に該当する方で、この研究についてのご質問がある場合や、研究協力の了承をいただけない場合は、お手数ですが公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科医師 松田俊明（電話 0561-82-5101）までご連絡いただければ幸いです。

|              |                 |       |
|--------------|-----------------|-------|
| 研究責任者：公立陶生病院 | 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 | 近藤 康博 |
| 研究協力者：公立陶生病院 | 呼吸器・アレルギー疾患内科医師 | 木村 智樹 |
| 研究協力者：公立陶生病院 | 呼吸器・アレルギー疾患内科医師 | 片岡 健介 |
| 研究協力者：公立陶生病院 | 呼吸器・アレルギー疾患内科医師 | 松田 俊明 |
| 研究協力者：公立陶生病院 | 感染症内科           | 武藤義和  |